

## 病院再編計画に不安

大阪市 住民から声次つき

大阪市が「二重行政に伴う病院再編計画にのムダ」と決めつけた市立住吉市民病院（住之江区）の今月末廃止

抱えた母親など地元住民ら250人が参加しました。

市は、廃止する住吉市民病院の医療機能を4月に開院させる府市母子住吉医療センター（仮称、住吉区）と誘致する民間病院に引き継がせる計画でしたが、4度の民間病院誘致に失敗し、誘致を断念。市は跡地に大阪市大付属の新病院を建設する方針ですが、まだ決まっていません。その間、跡地に小児科と産婦人科の診療所を開設し外来だけの暫定診療を行う計画です。

吉村洋文市長が出席し「センターは高度な

医療ができる」と強調。住民からは不安や抗議の声が次々とあがりました。

住民からは「市大病院が来るというのであれば、耐震補強して現地で建て替えの方が混乱することはなかった」「診療所で入院ができるようにしてほしい」「『都』構想の住民投票に税金を使うより市民病院にこそ使ってほしい」「重度心身障害児の短期入所など住吉市民病院が担ってきた機能の継承はできない。今からでも出産も入院もできる病院をつくる決断をすべきだ」などの声相次ぎました。

説明会の会場前で「住吉市民病院をまもるママの会」が「出産できて、子どもが入院できる病院が必要です」「住吉市民病院を残して下さい」と宣伝し、プラを配布しました。

説明会に参加した「ママの会」の安達明日香代表は「吉村市長は市民のことを見ていない。周産期の病床が少なくて、国も少ないと言っているところに高度で安心と言われても、病床が減ること自体が問題。そのことに市長は何も触れなかった」と憤りました。